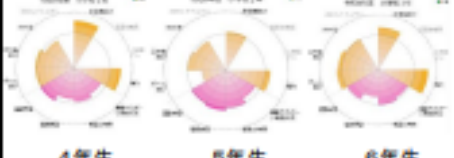
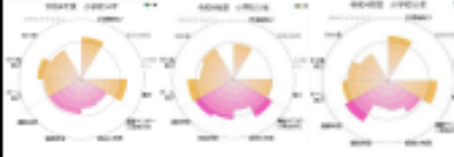


健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①家庭と連携し、「早寝早起き朝ごはん」や「あいさつ」等基本的な生活習慣が身に付くようにする。 ②ドッジボール週間や長縄等、運動に親しむ機会を設け、運動習慣の定着や健康の保持増進を図る。 ③学校保健委員会の取り組みを通して、自分の心と体や健康に関心をもつようにする。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況	
全市配布の体力・運動能調査分析シート(学年別) 1年生 2年生 3年生	
	
4年生 5年生 6年生	
	
①健やかな体に関する児童の実態 ・朝食の摂取率、睡眠時間が市の平均より少ない傾向にある。これは学年が進むにつれて平均を大きく下回ることが分かる。食育や保健において朝食や睡眠の重要性を伝える必要がある。 ・運動の実施については5年生以外の学年が市の平均を下回っている。ゲームやスマートフォン、SNSの普及によって、普段習い事で運動をしたり、公園で遊んだりする機会が減っていることが予想される。	
②体力の概要と要因の分析 令和4年度の新体力測定の結果を見ると、学年によってばらつきがあるものの、市の平均を下回っている結果が多く見られる。これは、コロナ禍によって運動する習慣が減り、外で遊ぶ機会が少なくなったことが原因だと予想される。体育科の学習や児童会での取組などで体を動かす機会を多く設定することが求めら	

今年度の目標
○バランスのよい食生活について考えることで、主体的に生活習慣を改善しようとする態度を育てる。 ○体育の授業や児童会の取組において工夫を凝らすことで、児童に体を動かす楽しさを味わわせ、スポーツを通してのコミュニケーションの促進を図る。

目標を達成するための具体的行動プラン	
上半期	○スポーツを通して自分の考えを表現できる力を育成するために、体育科の授業で学習カードに自分の考えをまとめられるようにしたり、お互いにアドバイスし合ったりできるようにする。 ○体育科担当者による情報交換の機会を定期的につくり、児童の実態に合わせた課題や学習資料を活用した、児童が主体的に取り組める体育科の授業展開になるよう工夫する。 ○「第一回大縄びよんびよんチャレンジ」(大縄大会)やドッジボール週間をスポーツ大好き委員会が中心となって運営する。学校全体でスポーツを通してのコミュニケーションの推進と主体的に運動に取り組む態度を育成するために、中休みの運動についてもスポーツ大好き委員会で提案をし、呼びかける。 ○健全な食生活を営む態度を育むために、家庭科や生活科、食育などの学習と給食指導を通して、バランスのよい食事について児童に考えることができるようにし、普段の生活がよりよいものになるように意識させるとともに、栄養や食に関する指導を行う。
下半期	○運動や健康・安全に関する学習に進んで取り組み、自他を肯定的に認め、自分のよさを発揮する子の育成を図っていく。運動の特性に触れた楽しさを多く味わわせることを意識する。 ○子ども一人ひとりが目標をもって取り組み、体力、健康に関する課題を解決しながら進める運動会づくりを行う。 ○学校保健委員会の取組を通じた心身の健康教育の推進を図る。 ○「第二回大縄びよんびよんチャレンジ」(大縄大会)をスポーツ大好き委員会が中心となって運営する。大縄練習会も企画し、児童会活動の取組である「なかよしびよんびよんチャレンジ」で、自身の能力を生かし、他学年と協力して活動を楽しむことを助長する。 ○命の教育、生活・総合を活用し、発達段階に応じた系統的な学びを行う。進んで事象に関わり、生命の神秘にふれ、そのすばらしさや尊さ、そして自分のよさを見つめる学習展開を図る。